

令和5年度 NPO活動資金助成団体・助成事業一覧

(単位:円)

No.	区分	団体名	事業名	当初交付額	確定額
1	スタートアップ事業	NPO法人 カケルとミチル	メンタルヘルスに課題のある思春期 若者の居場所作り	288,000	240,000
2		特定非営利活動法人 サイン	夏休み体験イベント「楽しく学んで 作って遊ぼう」	146,000	146,000
3		NPO法人 みんなの進路委員会	地元中高生による「子どもたちのため の高円寺環境ウィーク」	300,000	189,977
4		特定非営利活動法人 ROOF	子どもの凸凹見える化(アセスメント) 事業	299,000	0
5	ステップアップ事業	特定非営利活動法人 グローイングピープルズウィル	ICT(コード化点字ブロック)活用視覚 障害者誘導	300,000	300,000
6		特定非営利活動法人 障害者就労支援センター どんまい 福祉工房	中学生高校生の居場所「寺子屋学ぼ う」	210,000	40,860
7		特定非営利活動法人 プロップK	みんなで創る! スマホ体験型コミュニ ティ	98,000	98,000
8		特定非営利活動法人 まちの塾freebee	中高生のための無料学習・受験サ ポート事業	106,000	79,864
合計				1,747,000	1,094,701

助成金対象事業報告書(令和5年度)

団体名	NPO法人カケルとミチル
事業名	メンタルヘルスに課題のある思春期若者の居場所作り
事業(該当区分に○)	①. スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	杉並区在住の不登校や引きこもりといった課題を持つ思春期・青年期の若者を対象に、月に1度、同じような境遇の方で集まり、社会との接点を作っていくための話し合いの場「グループミーティング」を設ける。ファシリテーターには国家資格を持つ専門職が同席し、専門的な支援が受けられる形で開催する。
事業目的	不登校や引きこもりといったメンタルヘルス上の課題を持つ思春期・青年期の若者が、自分らしく積極的に社会参加ができるようになることを目指す。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 発達障害、不登校、引きこもりといった課題を持つ12～22歳程度の杉並区在住の若者。現時点では、児童精神科に特化した訪問看護ステーション「ナンナル」の利用者が主に参加している。延べ人数は40～80名程度。	参加者の延べ人数は23名。感染症や体調不良等の都合で欠席などが多くみられた。また参加者の特性や背景から、新たなメンバーが参加することに対して慎重にならざるを得なかった。グループの雰囲気や空感、築いてきた信頼関係等を考慮し、新規の参加者は2名に留まり、参加者数が伸び悩んだ。
	②実施内容 登校や引きこもりといったメンタルヘルス上の課題を持つ思春期・青年期の若者を対象に、参加者同士が顔を合わせて話し合いを行う。作業療法士がファシリテーターを務め、ミーティングの流れを作りつつ参加者のコミュニケーション支援を行う。	計画通り実施された。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 2023年7月から2024年2月の間で月に一度、計8回実施。	2023/7/8 コミュニティふらっと東原 2023/8/12 コミュニティふらっと阿佐谷 2023/9/16 コミュニティふらっと阿佐谷 2023/10/14 コミュニティふらっと阿佐谷 2023/11/18 コミュニティふらっと阿佐谷 2023/12/9 コミュニティふらっと阿佐谷 2024/1/13 コミュニティふらっと阿佐谷 2023/2/10 阿佐谷地域区民センター 各1時間半ずつ
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) アドバイザー: 医師・作業療法学博士ら1～3名 ファシリテーター: 作業療法士1名 運営スタッフ: 公認心理師・作業療法士ら1～2名 参加費はかからず、参加者は交通費の負担のみとする。	アドバイザー: 医師・作業療法学博士ら2名 ファシリテーター: 作業療法士1名 運営スタッフ: 公認心理師・作業療法士2名 参加費はかからず、参加者は交通費の負担のみとした。
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) すぎなみ協働プラザ、杉並区社会福祉協議会にチラシの配布等をお願いし、関係各所に参加者募集情報を拡散する。	後述の通り、参加者達の特性を考慮した結果、新たな参加者を広く募集することは行わない方針となった。そのため、当初予定していたすぎなみ協働プラザ等のチラシ配布は行わず、訪問看護ステーションナンナルのスタッフを通じて、訪問看護利用者の中から参加適応となりそうな利用者に対してグループミーティングの情報をお伝えするという形での広報を実施した。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。		
		<p>発達の遅れや偏りを持つ子どもが成長して思春期・青年期に突入したとき、適切な支援を受けながら安心して過ごせる居場所は極めて少ない。その結果、不登校や引きこもりといった社会的な問題に繋がることも少なくない。</p> <p>そうした生きづらさを抱える若者が安心して過ごすことのできる居場所として、単なるピアサポートではない専門的な支援を受けられる機会が求められていると考える。</p>	<p>想定通り、単なる居場所事業やピアサポートではなく医療系専門職による支援のもとで交流が行える点で、参加者の満足度は非常に高かった。今年度新たに参加することになったメンバーも「同じような経験をした先輩がいるのが心強い」「みんな色々考えていると知って勉強になった」「居心地がいいのでまた来たい」といった感想を述べていた。</p> <p>一方で、既にある参加者らの空気感や、彼らの意思決定を尊重するという点において、本事業を拡大していくことに課題があると感じた。</p>
		【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください	
		<input checked="" type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。		
	<p>当法人は児童精神科医や作業療法士、公認心理師といった幅広い職種の専門職が在籍しているという特色がある。また、同じ杉並区阿佐ヶ谷地域にある児童精神科に特化した訪問看護ステーションと連携して当事業を行ってきた。当法人正会員と訪問看護ステーションスタッフが、幅広い視点からの専門的支援が提供できると同時に、地域に根ざした各所関連機関と連携をとりながら居場所づくりを行っていくことが可能であると考ええる。</p>	<p>医療系の国家資格を所持する法人関係者らを中心として、グループミーティングにおける参加者への支援方法について随時意見交換を行った。毎月第2木曜日にはオンラインにて約1時間程度会議の時間を設け、運営面での計画や参加者らについての情報共有、支援方法の確認等を行ってきた。</p> <p>同じ杉並区内で活動する訪問看護ステーションとの連携は継続して行っており、訪問看護ステーション所属の看護師や作業療法士がグループミーティングの見学に訪れ、参加者らと交流を計ることもあった。また、杉並区に在住する不登校児の保護者が運営する任意団体とも連絡を取り合い、不登校問題について話し合うことや、研修会情報の交換等を行ってきた。</p>	
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。			
	<p>今回の助成金申請をきっかけに、同じような課題を持った団体や対象者が被る関係団体と顔馴染みになり、今後は積極的に連携をとっていきたいと考える。その結果、生きづらさを抱えた子ども、若者、大人をバックアップする地域の基盤作りが行える。また、そうした団体を通じて今後グループミーティングに参加する可能性のある方のピックアップなどを行うことも可能になると考える。そうすることで、障害の有無に関わらず、区民の誰しもが生き生きと自分らしく社会参加ができるようになることを目指していきたい。</p>	<p>訪問看護ステーション「ナンナル」と、杉並区不登校児の親の会「ミモザの花」の2団体と連携し、情報交換、新たな参加者の募集・候補者ピックアップ等を行うことができた。一方で先述したように、新たな参加者候補が実際にグループミーティングに参加できるようになるまでは、頻度や回数といった量的な制限に加え、既存の参加者らの心理面やコミュニケーション支援の点での考慮といった質的なハードルが存在することが明らかになった。</p>	
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。			
	<p>連携をとった2団体との情報交換を通して、当法人がグループミーティングという事業を行っていること、そして不登校や引きこもりといった社会的課題の解決の一助として、こうした支援が求められていることを身近な関係者に知ってもらうことができた。また、すぎなみ協働プラザの職員の方々との関わりや、すぎなみ地域コムへの登録を通して、杉並区内の関係機関に当団体の存在や実施事業について知ってもらうきっかけができた。</p> <p>さらに、法人関係者らが医療・教育・障害福祉分野の関係者と関わる際に、杉並区のNPO支援基金から助成をいただいていることを話のきっかけとして、当法人が課題と考える「発達障害・メンタルヘルスの課題を持つ子ども・若者への支援」について意見交換を行い、互いに考えを深めることができる機会が得られた。</p>		
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input type="checkbox"/> ①広がった <input checked="" type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	実施内容、回数、参加者への支援、といった点では当初から予定していた通りに実施することができた。一方で、事業拡大の手法の一つである新たな参加者を迎え入れるという点では、先述したような課題があったため想定よりも人数の確保が難しかった。
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	会場・法人事務所への募金箱の設置、関係機関・人へのチラシの配布を実施。
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

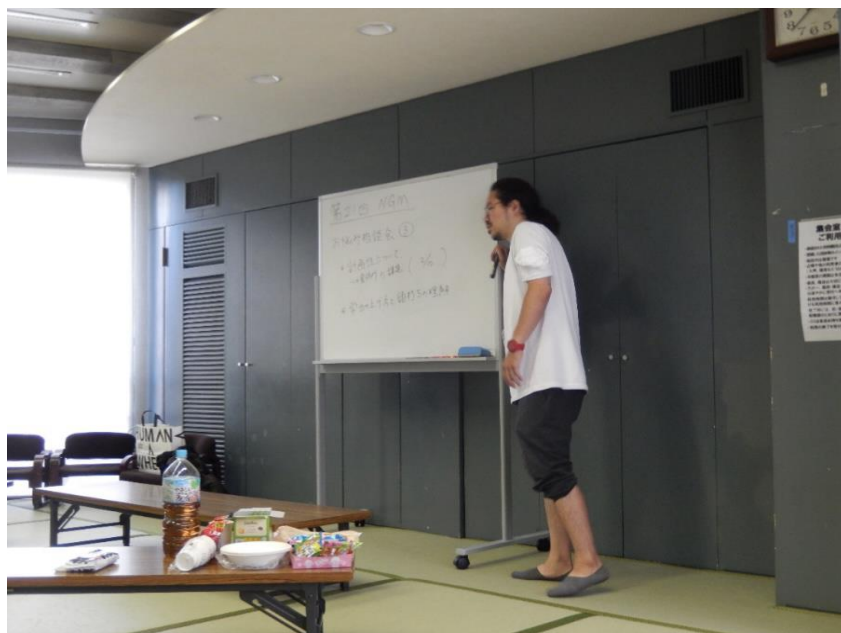
5 事業に関する意見収集の成果について

意見収集の方法・成果	<p>事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の実施中に直接参加者らへ「グループミーティングについての感想」を尋ねた。 ・訪問看護ステーションナショナルスタッフによる訪問看護のタイミングで、参加者の保護者らに直接意見を伺った。
	<p>参加者のうち、どのくらいの人から感想や意見を集めることができましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者全員から意見を聴取することができた。 ・参加者の保護者にインタビューを行い、意見を聴取することができた。
	<p>貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。</p> <p>【参加者より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じような経験をした先輩がいて、話を聞いたのが心強かった ・みんな色々考えていることを知り、とても勉強になった ・居心地がいいのでまた来たい ・ここで築いてきた関係性があるから話せることもある、など <p>【保護者より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他に家の外へ出る機会が全然ないので、本人にとっての居場所なのだと思う ・まさか行けるとは思っていなかった。家でグループミーティングの話をするのはあまりないが、こうして同年代の子がいるところへ積極的にいきたいと思えるのは親として嬉しい ・グループミーティングで自分の考えが整理できると言っていた、など
意見収集した活用	<p>収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。</p> <p>経験者や先輩からの話を直接聞くことで学びになったという意見より、来年度以降に参加者達より少し年齢層の高い成人をゲストとして招待し、過去の経験や体験を共有してもらう形でのピアサポートを行いたい。</p> <p>参加者達が感じる居心地の良さ、関係性の質を保つことを大切にしつつ、こうした取り組みを広めるために新たな視点での事業拡大を図っていきたい。</p>

6 課題と今後の活動について

今後課題と活動	<p>新たな参加者の増加に関する課題に対しては、既存のグループに参加者を追加していく従来の形に加え、別日で新たなグループを作成し、新たなメンバーで一から関係性づくりを行うことを検討していきたい。</p> <p>また今年度までの取り組みを踏まえて、グループミーティングに参加することで何を達成したか、何が変化したかを参加者ら自身がわかりやすく認識・評価できる仕組みを作りたいと考える。</p>
---------	---

★具体的な活動風景の写真などを貼付



8 収支決算

事業費	[D]	261,479	助成金	[E]	240,000
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入					
団体負担金		61,000		21,479	団体負担金
参加費・資料代等					
その他の収入					
計	[C]	61,000	[F]	21,479	自己資金等
助成金	[B]	288,000	[E]	240,000	NPO活動資金助成金
合計	[A]	349,000	[D]	261,479	

費目	予算額		決算額		決算額内訳	
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費		
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)			192,000		ファンリレータ・当日運営(国家資格所有の専門職)への謝礼¥8000×1.5h×2人×8回	
			48,000		当日運営への謝礼¥8000×1.5h×1人×4回	
小計	288,000	0	240,000	0		
②旅費・交通費						
	小計	0	24,000	0	0	
③備品費・消耗品費						
	小計	0	0	0	0	
④通信運搬費						
	小計	0	0	0	0	
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)						
	小計	0	5,000	0	0	
⑥使用料・賃借料				11,000	会場レンタル料×8回分	
	小計	0	16,000	0	11,000	
⑦その他の経費				10,479	参加者用お茶菓子×8回分	
	小計	0	16,000	0	10,479	
合計			240,000	21,479	48,000 戻入額[B]-[E]	
	[B]	288,000	[C]	61,000	[E]	240,000
	[A]	349,000	[D]	261,479	[F]	21,479

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

NPO活動助成対象事業報告書(令和5年度)

団体名	特定非営利活動法人サイン
事業名	夏休み体験イベント「楽しく学んで作って遊ぼう」
事業(該当区分に○)	① スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	地域と協力してイベントを実施し、子どもたちに様々な体験活動を提供します。小学校の夏休み期間中、杉並区在住・在学の小学生を対象に工作教室、宿題お助け隊、水鉄砲大会、読書感想文教室を開催します。
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と協力してイベントを実施し、子どもたちに様々な体験活動を提供するため。 ・長期休暇中の子どもの孤立を防ぎ、夏休み明けの登校渋りを緩和するため。 ・多世代との交流を通し、子どものコミュニケーション力や自己肯定感を高め、将来の自立へと繋げるため。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 杉並区在住・在学の小学生 ①自由工作教室 40名 ②宿題お助け隊 40名 ③水鉄砲大作戦 80名 ④読書感想文教室 30名 (延べ190名)	杉並区在住・在学の小学生 ①自由工作教室 29名 ②宿題お助け隊 26名 ③水鉄砲大作戦 108名 ④読書感想文教室 26名 (延べ189名)
	②実施内容 ①色々な形の端材を使って好きな物を作る工作教室。道具の使い方も教えます。 ②大学名誉教授など地域ボランティアスタッフによる宿題サポート。 ③水鉄砲を持って校庭に集合！「フラッグ戦」や「逃走中」など夏休み最後の恒例企画。 ④元新聞記者による読書感想文の書き方教室	計画通り実施
	③実施回数・スケジュール・実施場所 ①7月25日(火)12:30～16:00・60分×3回・阿佐谷地域区民センター 工芸室 ②7月24日(月)～28日(金)9:30～12:00・5日間・杉並第六小学校 視聴覚室、家庭科室 ③8月30日(水)10:00～12:00・60分×2回・杉並第六小学校 校庭 ④7月21日(金)、8月23日(水)13:00～17:00・45分×3回×2日・阿佐谷地域区民センター 集会室	①7月25日(火)13:30～16:00・60分×2回・阿佐谷地域区民センター 工芸室 ②7月24日(月)～28日(金)10:00～12:00・5日間・杉並第六小学校 視聴覚室、家庭科室 ③8月30日(水)10:00～12:00・60分×2回・杉並第六小学校 校庭 ④7月21日(金)13:00～16:00、8月23日(水)12:30～16:00・45分×2回×2日・阿佐谷地域区民センター 集会室
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) ①東京土建杉並支部の講師2名・地域ボランティア4名 ②大学名誉教授など講師3名×5日・地域ボランティア3名×5日 ③学生ボランティア2名・地域ボランティア9名 ④ジャーナリスト1名×2日・地域ボランティア5名×2日	①東京土建杉並支部の講師2名+スタッフ4名・団体スタッフ4名 ②大学名誉教授など講師3名×5日・地域ボランティア2名×5日、1名×3日・団体スタッフ1名×5日 ③学生ボランティア2名・地域ボランティア3名・団体スタッフ6名・保護者ボランティア10名 ④ジャーナリスト1名×2日・団体スタッフ3名×2日、1名×1日
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) チラシ配布・団体WEBサイト 杉並区の後援申請を行い、地域の小学校でチラシを配布する。	チラシ配布・団体WEBサイト 杉並区教育委員会の後援名義を取得し、杉並第六小学校、杉並第七小学校、馬橋小学校の全児童にチラシを配布した。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。		
	<p>・各種イベントを開催してきた中で、夏休みの子どもたちの居場所が少なくなり、安心して遊べる居場所が欲しいという声を多く聞く。また、イベントの申込人数も冬休み、春休みと比べて非常に多く、需要の高さを感じるため。</p> <p>・コロナ禍で学校行事や地域のイベントが無くなり、経験不足や社会との繋がりが乏しい子どもが多いため。</p>		<p>・コロナ明けで地域のイベントやお祭り等も復活した夏ではありましたが、依然として長期休暇中の子どもの居場所は限られ、保護者からも安心して行かせられる地域の居場所があるのは有難いとの声をたくさん頂きました。</p> <p>・しかしながら、遊べる居場所（自由工作教室・水鉄砲大作戦）と学べる居場所（読書感想文教室・宿題お助け隊）ではニーズの差があり、圧倒的に遊べる居場所の方が申し込み数が多いため、熱中症対策などでなかなか公園にも行けず、子どもの遊ぶ場所が枯渇している現実を痛感しました。</p>
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input type="checkbox"/> ①あった <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった		
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。		
<p>団体の主事業である、放課後子ども教室で繋がりのある、地域の方々や企業と協力してイベントを行い、地域資源を最大限活用するとともに、地域全体で子どもを見守る子育てコミュニティを目指す。</p>		<p>・夏休みのイベント開催は3年目になりますが、年々協力して下さる地域の方々や企業・団体が増えていることを実感しています。杉並区教育委員会、杉並第六小学校、高円寺南児童館、東京土建杉並支部、地域団体『OgiLOVE』、ソニー生命やビジョンのボランティア協力、和田小学校のボランティア参加など、多くの方々を支えられ、イベントを実施することができました。</p> <p>・今後も当団体の活動で繋がりのある方々、企業、団体と一緒に、地域の中で子どもが健やかに成長できる環境づくりを目指していきます。</p>	
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください			
<input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった			
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。			
<p>・親の就労状況や生まれ育った環境に関係なく、すべての子どもに等しく、遊びや学びのチャンスが与えられる。(生活困窮者の参加費は応相談とする。)</p> <p>・地域の市民、企業、行政と協力して、誰一人取り残されない地域子育てコミュニティを作り、すべての子どもが健やかに育つ地域社会を目指す。</p> <p>・地域の大人にとっても活躍の場となり、大人も子どもも育み合える居場所ができる。</p>		<p>・杉並区NPO支援基金を活用させていただき、杉並第六小学校のみを対象としていたイベント事業を、地域の小学校(杉並第七小学校と馬橋小学校)へ拡げて参加者を募ることができました。より多くの子どもたちに遊びや学びのチャンスを与えられたとともに、他の学校の児童とも交流できる貴重な機会になりました。</p> <p>・子どもたちに様々な学びを教えていただいた講師の方々や、一緒に遊んでいた地域ボランティアの方々など、学生からご年配の方まで皆生き活きと活動してくださっていたのが印象的でした。地域の中で多世代が繋がりが合える「みんなの居場所」を作ることができたと感じています。</p>	
<input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった			
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。			
<p>イベントを開催するにあたり、企業をはじめ杉並区内の中小PTAや学校支援本部の方が当日見学、お手伝いに来て下さいました。終了後、企業として今後の支援についての内容や、地元の学校で同じような取り組みができないか等、意見交換の場を持つことができました。確実に本事業や当団体の活動を理解してくださっている方々の広がりを実感しています。</p>			
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください			
<input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった			

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己 評価	①自由工作教室：東京土建杉並支部との協働企画のため先方の時間に限りがあり、60分×3回実施予定が60分×2回になり、定員も40名から32名に減ってしまいました。 ②宿題お助け隊：当初の予定は東京土建杉並支部との協働企画でしたが、先方の諸事情により当団体の単独開催となったため、開催時間を見直しました。9時30分～12時00分→10時00分～12時00分 ③水鉄砲大作戦：当初予定していた定員80名を上回る108名の申込みを頂きましたが、地域の方々や学校・児童館の先生、保護者のボランティアにご協力いただき、108名全員に参加して貰うことができました。 ④読書感想文教室：初めての取り組みで、試行錯誤を繰り返しながら進めました。講師の先生のご希望に沿うよう開催時間を調整しました。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及 活動等	チラシにロゴマークを入れたり、のぼり旗やタペストリーを教室に掲げ、受付には募金箱を設置しましたが、基本的に子どもが参加するイベントのため、普及啓発活動に貢献できたかどうかは疑問です。
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください <input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input checked="" type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった

5 事業に関する意見収集の成果について

意見 収集の 方法・ 成果	事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。 それぞれのイベント終了後に参加者へメールでWebアンケートを依頼しました。
	参加者のうち、どのくらいの人数から感想や意見を集めることができましたか。 延べ189名の参加者のうち、46名からアンケートの回答を集めることができました。(回答率24.3%)
	貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。 ①自由工作教室 トンカチやノコギリの使い方を習う前は「危ない」と思っていたのですが、ちゃんと教えて貰い使える様になって嬉しかったです。/ノコギリの使い方が難しかったようです。時間も足りず、満足のいく作品にならず、モヤモヤしておりました。/子供は楽しかったようですが、親としては昨年のキットのような筆箱や車といった作品(自宅で色付け)を想像していたので残念でした。/子育て応援券が使えるようにして頂けると有難いです。 ②宿題お助け隊 休憩中に外遊びが出来たので、リフレッシュして宿題にも取り組めたようです。/子どもは「楽しかった!」とはなりませんが、夏休み最初の週に宿題のプリント系を終わらせることができとても助かりました! /丸付けまでしていただいて助かりました。/自宅でするよりもはかどったようで、助かりました。 ③水鉄砲大作戦 水鉄砲大会のような、楽しみながらたくさん動き回れるイベントがあると嬉しいです。/以前参加した時よりもバージョンアップしていて、全体的には楽しかったようです。ただ4年生男子としては、撃ち合いが大人しかなかったので物足りなさもあったようでした。/水鉄砲大作戦は新学期前に学校に行けるともいい機会になりました。/荷物は個人が持参した大きなビニール袋やゴミ袋に入れるようにしてはどうでしょう? 荷物がビショビショになって帰って来て、悲しかったです。 ④読書感想文教室 ・親も聴講させていただき、目から鱗なお話が多く、有意義な講習会でした。/読書感想文教室でこつを教えてもらい、違う視点で感想文を書くことができいました。/2回目が終わりに、自宅にて実際に感想文を書き始めたら、講師の方に言われた書き方の流れにとらわれすぎて、反対に書けなくなってしまい、ポイントを教えてもらえばいいという訳でもないんだなあと感じました。/子供よりも親が参考になりました。親が同席させて頂けて良かったです。二日間の開催日がはなれていたため、開催日が近い方が予定がつきやすいと思いました。
	収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。 活動内での感想やアンケートの回答で「来年の開催も楽しみにしています。」「楽しい企画をいつもありがとうございます。」というお声をたくさん頂き、本事業が地域の中で定着してきており、今後も継続が期待されていることを実感しています。しかしながら、上記のようにそれぞれの活動でご指摘いただいた点は真摯に受け止め、来年のイベントや今後の活動に生かすよう改善を図っていく予定です。

6 課題と今後の活動について

今後 課題と 活動	地域に定着しつつある事業のため、今後も継続して活動を行っていく予定ですが、今回の経験で学んだ参加者のニーズやご意見を参考に、活動内容を見直し、また新たなイベントにも挑戦していきたいと考えております。今回最も反省している点は、準備時間が不足していたことです。杉並区の後援名義申請などに時間が掛かり、チラシもバタバタと作成し、十分な申込期間を取れなかったことが定員不足の原因でもあるため、今後は余裕を持った準備期間を設けるよう改善して取り組みます。
-----------------	--

★具体的な活動風景の写真などを貼付



8 収支決算

事業費	[D]	250,457	助成金	[E]	146,000
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金	470	7,557		団体負担金
	参加費・資料代等	20,000	14,500		①自由工作教室参加費@500×29名
		40,000	26,000		②宿題お助け隊参加費@1,000×26名
		24,000	32,400		③水鉄砲大作戦@300×108名
		30,000	24,000		④読書感想文教室@1,000×24名
	その他の収入				
	計	[C] 114,470	[F] 104,457		自己資金等
助成金	[B] 146,000	[E] 146,000		NPO活動資金助成金	
合計	[A] 260,470	[D] 250,457			

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)			10,000		①自由工作教室講師謝礼@5,000×2名
				12,000	①自由工作教室ボランティアスタッフ謝礼@3,000×4名
			75,000		②宿題お助け隊講師謝礼@5,000×3名×5日間
				39,000	②宿題お助け隊ボランティアスタッフ謝礼@3,000×13名
			6,000		③水鉄砲大作戦学生ボランティア謝礼@1,500×2時間×2名
				24,000	③水鉄砲大作戦ボランティアスタッフ謝礼@3,000×8名
			10,000		④読書感想文教室講師謝礼@5,000×1名×2日間
小計	101,000	114,000	101,000	96,000	④読書感想文教室ボランティアスタッフ謝礼@3,000×7名
②旅費・交通費					
小計			0	0	
③備品費・消耗品費			5,000		①自由工作教室材料費(木材、釘など一式)
			3,318		②宿題お助け隊文房具(鉛筆・消しゴム・紙・マッキー等)
			756		②宿題お助け隊衛生用品(除菌シート)
			5,431	1,829	③水鉄砲大作戦材料費(ポイ)
			2,615		④読書感想文教室文房具(原稿用紙・紙・インク等)
			880		④読書感想文教室衛生用品(テーブルクロス・ポリ袋)
小計	18,000		18,000	1,829	
④通信運搬費					
小計			0	0	
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)			5,430	180	①④自由工作教室・読書感想文教室チラシ作成1,500枚
			4,170		②宿題お助け隊チラシ作成500枚
				3,250	③水鉄砲大作戦チラシ作成500枚
	小計	9,600		9,600	3,430
⑥使用料・賃借料			1,500		①自由工作教室阿佐谷地域区民センター施設使用料
			1,950		④読書感想文7/21阿佐谷地域区民センター施設使用料
			3,850		④読書感想文8/23阿佐谷地域区民センター施設使用料
小計	11,600		7,300	0	
⑦その他の経費			1,017	211	①自由工作教室保険料(参加者29名、スタッフ6名)
			2,864	1,741	②宿題お助け隊保険料(参加者26名、スタッフ6名)
			3,679	716	③水鉄砲大作戦保険料(参加者108名、スタッフ21名)
			2,540	530	④読書感想文教室保険料(参加者24名、スタッフ5名)
小計	5,800	470	10,100	3,198	
合計			146,000	104,457	0 戻入額[B]-[E]
	[B] 146,000	[C] 114,470	[E] 146,000	[F] 104,457	
	[A] 260,470		[D] 250,457		

☆ 注意事項(1) 単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2) 団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

NPO活動助成対象事業報告書(令和5年度)

団体名	特定非営利活動法人みんなの進路委員会
事業名	地元中高生による「子どもたちのための高円寺環境ウィーク」
事業(該当区分に○)	① スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	杉並区内の中高生が、地元地域の団体等と連携して、「夏休み期間に杉並区内の小学生に対してSDGsに関する学びの場を提供する」ことを通して、地域社会の中で多様な人々と協働することを学ぶ3ヶ月間の実践型育成プログラム
事業目的	これからの地域社会を担う中高生世代が、早期から地域社会に主体的かつ段階的に関わり、担い手として育成される仕組みを作る。 また、地域社会の中で主体的に考え、地域に貢献する機会を提供することを通して、地域社会の中で多様な価値観を持つ人々と協働することができる人材を育成する。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実施状況	<p>①実施対象者・対象人数(延べ人数) 実施対象者:杉並区在住の中高生・杉並区に立地する学校に在籍する中高生 対象人数:最大20名</p>	17名の杉並区在住・在学の中高生が参加(うち、中学生4名)
	<p>②実施内容 学び編(全5回)・企画編(全2回)・実践編(全3回)の計10日程で、高円寺地域にまつわるSDGsに関連した課題を学び、地域の団体(高円寺氷川神社・グリーンバード高円寺チーム・高円寺フードロスゼロ)と協働して、「地元の小学生が楽しくSDGsについて学べるワークショップを実施する」というゴールを目指して企画・実践するプログラム。</p>	<p>全5回の学び編、全2回の企画編を経て、8月5日(土)～6日(日)に「SDGsフェスタin高円寺」と題して4つのワークショップを中高生たちが2日間高円寺の4会場で実施。高円寺学園・杉並第三・杉並第六・杉並第十・馬橋・堀之内・光塩女子学院などの小学生延べ103名が来場した。 【内訳】 ・ポイ捨て 15名 ・気候変動 27名 ・アップサイクル 34名 ・フードロス 27名</p>
実施状況	<p>③実施回数・スケジュール・実施場所 【学び編】 ・6/4(日)15:00-17:00「街歩きで学ぶ高円寺」(講師:長谷川まさや氏/お散歩会(杉並)代表)集合場所:JR高円寺駅南口広場 ・6/11(日)19:00-21:00「心を動かすPR戦略」(講師:鈴木もも香氏/10TベンチャーPR責任者)会場:オンライン ・6/15(木)19:00-21:00「ごみ拾い×〇〇企画力で社会貢献」(講師:福田圭祐氏/NPO法人greenbird代表)会場:オンライン ・6/18(日)17:00-19:00「熱中するワークショップデザインのポイントとは」(講師:中尾根美沙子氏/青山学院大学プロジェクト准教授)会場:高円寺 & tenna ・7/2(日)17:00-19:00「SDGsってなんだろう」(講師:酒井功雄氏/気候変動アクティビスト)会場:高円寺中央会議室 【企画編】 ・7/2(日)13:00-17:00「プログラムデザイン」会場:高円寺中央会議室 ・7/23(日)13:00-17:00「リハーサル」会場:高円寺氷川神社・JR高円寺駅南口広場・高円寺北区民集会所・コミュニティふらっと馬橋 【実践編】 ・8/5(土)～8/6(日)8:30-15:30「SDGsフェスタin高円寺」会場:高円寺氷川神社・JR高円寺駅南口広場・高円寺北区民集会所・コミュニティふらっと馬橋 ・8/27(日)15:00-17:00「プログラムの振り返り」会場:高円寺 & tenna</p>	<p>変更点:【実践編】8/5(土)～8/6(日)8:30-17:30</p>
	<p>④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) ・プログラム統括 谷村一成(NPO法人みんなの進路委員会理事長) ・プログラムスタッフ 4名(NPO法人みんなの進路委員会) ・協力団体 グリーンバード高円寺チーム(4名)・高円寺氷川神社(4名)・高円寺フードロスゼロ(5名) ・外部講師 5名 会場 JR高円寺駅南口広場・高円寺北区民集会所・コミュニティふらっと馬橋・高円寺氷川神社・高円寺 & tenna・高円寺中央会議室</p>	<p>(変更点) 協力団体のうち、高円寺氷川神社のスタッフが3名に変更</p>
	<p>⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) ・高円寺経済新聞掲載 ・PR Times配信 ・杉並区内の小中高へチラシ配布 ・東京都ボランティア市民活動センター広報協力 ・Activo掲載</p>	<p>・JCOMで放送(3回) ・高円寺経済新聞掲載(2回) ・PR Times配信(2回) ・FMすぎなみで放送(2回) ・杉並区内の小中高へのチラシ配布 ・東京都ボランティアセンター、杉並区社会福祉協議会、杉並区環境活動推進センター、高円寺中央青少年育成委員会、松ノ木納涼祭・子どもエコクラブ・お散歩会(杉並)が広報協力 ・区内スポーツ施設、児童館、図書館、掲示板、放課後等居場所事業、子育てプラザでチラシ掲示 ・Activo、いこーよ、杉並区HPイベントカレンダー掲載</p>

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果及び自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
	<p>地域コミュニティの希薄化に伴い、中高生世代が地域と関わる機会が減少していることに加え、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、様々なボランティア活動等が中止になったため中高生と地域社会が繋がる限られた機会すら無くなっている現状がある。</p>	<p>アンケート結果より ・新型コロナウイルス等の影響で、これまで地域社会と繋がる機会は少なかった 57.8% ・ボランティア活動等を通して地域社会と繋がる機会を求めている 82.3%</p>
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください	
	<input checked="" type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
	<p>(団体的特性) 当法人では、任意団体期の2021年から、中高生の主体性を発揮するためのワークショップ等を全国20以上の学校で開催してきた。また、渋谷区の学校では、中高生が自ら社会課題解決に取り組むワークショップを企画運営するプログラムをコーディネートしている。これらの経験に基づき、企画運営のコーディネートや、研修プログラムの提供を実施する。</p> <p>(地域的特性) 杉並区高円寺地域の住民にとって身近であるゴミのポイ捨て問題やそれに関連するアップサイクル。飲食店が多いため顕著となるフードロス。日本唯一の気象神社で学ぶ気候変動。地域に密接な4つのテーマを選択している。また、それぞれ「高円寺フードロスゼロ」「グリーンバード高円寺チーム」「高円寺氷川神社」の3団体と連携し、これらのテーマに専門的な知見をもつ地域の方々との協働できる体制を整えている。</p>	<p>(団体的特性) プログラムを通して、ワークショップデザインを学ぶという視点を一貫して持っていた。学び編では、単なる講師からの学びに限らず、各団体がワークショップとしてデザインされ、アイスブレイクや参加の保証・参加の増幅・協働活動やファシリテーションの事例を体験を通して学べる設計となっていた。中高生たちも、企画編ではどのようなワークショップをデザインするのかという視点を中高生どうして確認しながら企画を行っていた。</p> <p>(地域的特性) 地域に関連した4つのテーマを、地域で活動する3つの団体のスタッフから学び、共にワークショップデザインに取り組んだ。中高生たちは、期間中、より課題を学ぶために、有志で地域で活動する団体の定例活動に参加する者も少なくなかった。また、各団体より専門的な知見を学び、小学生に行うワークショップに知識や技術を活用していた。</p>
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。		
<p>(区民や地域にもたらす具体的な効果はどのようなものがあると考えていますか) ・杉並区の中高生が、地域社会と関わるきっかけを得る ・杉並区の中高生が、地域社会の多様な価値観を持った人々と協働する経験を得る ・杉並区の中高生のまちづくり意識や地域への帰属意識が向上する ・杉並区において若者世代が地域社会に関心を持つ持続可能な仕組みができる</p> <p>(助成を受けることで、団体活動や事業発展にどのような効果(継続性・発展性)がありますか) ・これまで、当法人のプログラムにはスタッフの知人や口コミで中高生が参加していたため、参加人数や参加している若者の多様性に限界があったが、今回の助成により多様な手段で広報が可能となるため、多様な中高生にアプローチすることができる ・今回の実績をもとに、中高生が地域社会において実践活動を行うプログラムを確立し、杉並区内の学校への導入や企業スポンサーの獲得、区外地域への展開につなげることができる</p>	<p>(区民や地域にもたらした具体的な効果) アンケート結果より ・地域社会と関わるきっかけになった 100% ・地域社会の多様な価値観を持った人々と協働する経験を得られた 100% ・まちづくりや地域への帰属意識が高まった 88.3% ・今後も地域社会に関心を持ち、何らかの活動に取り組みたいと考えている 100%</p> <p>(助成を受けることで、団体活動や事業発展にどのような効果(継続性・発展性)があったか) ・当事業を通して、チラシの全高校への配布などが行われ、杉並区在住・在学の幅広い中高生に当団体の活動が認知された。また、広報活動を通して、各学校でキャリア教育や課外活動を推進する教員との繋がりができ、出前授業や教員研修、その他コラボレーション企画の実施へと発展している。 ・中高生が地域社会において実践活動を行うプログラムを実施した経験を得たことにより、他地域での同様の企画の実施計画が複数始まっている。また、当事業をプレスリリースやメディアの記事等で知った学校・教育関係者・その他団体から問い合わせをいただき、取材や講演依頼、他地域での中高生の課外活動の場づくりの計画などに発展している。</p>	
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。		
<p>当事業を通して、主たる事務所が立地しているにも関わらず、これまで繋がりが弱かった杉並区内で様々な理解者や支援者が広まった。</p> <p>①学校との関係性・・・プログラム参加者の広報を行ったことを契機に、それらの中学・高校の教員の方々との繋がりが生まれた。この関係性は、今後の当法人の様々な事業において、中高生への広報や学校でのワークショップの開催などに繋がると考えている。すでに、一部学校からは教員研修の依頼や生徒向けワークショップの開催依頼をいただいた。また、中高生たちが企画するワークショップの参加者募集を行ったことで、小学校の教員の方々との繋がりがも生まれた。これまで、中高生中心に事業展開をしていたが、小学校への出前授業のご相談など、当団体の新規事業領域の拡大に繋がろうである。</p> <p>②地域との関係性・・・地元メディア(すぎなみFM等)や、高円寺中央青少年育成委員会・親父の会などの地域活動をしている団体や個人と繋がることができた。当団体がより地域に根ざして活動する上で、広報やコラボレーション企画を実施する協力者となっていたと考えている。</p> <p>③行政との関係性・・・区内公共施設や杉並区の各課の職員の方々との繋がりができた。団体としての利用登録を行ったり、連携したイベントの実施を検討したりという展開が起きている。</p>		
【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
<input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	大枠は当初の予定どおり実施し、当初の目的を達成することができたが、募集期間に中高生が集まりきらず、追加募集を実施したり、会場予約がうまくできず、一部会場や実施時間帯の変更が生じた。また、プログラム募集当初は全日程参加できると言っていた中高生たちも、部活動や家庭の事情などによりとところどころ休みが発生したり、途中離脱者が出たりして、チーム編成をし直したり、プログラムを微調整したりと運営に苦慮した。
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/>①できた <input checked="" type="checkbox"/>②概ねできた <input type="checkbox"/>③あまりできなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどできなかった</p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	プログラム開始時に、中高生参加者全員との面談において、杉並区NPO支援基金の助成事業であることやその具体について説明を行った。また、区内小学校等に配布された約3,000枚のチラシに、杉並区NPO支援基金の助成事業である旨を記載して紹介した。さらに中高生たちが実施する小学生向けワークショップにおいて、各会場で杉並区NPO支援基金ののぼりの掲示と募金箱の設置、参加者への紹介を行った。その他、プレスリリースでの紹介、当団体HPやSNS等での紹介なども行った。
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/>①できた <input checked="" type="checkbox"/>②概ねできた <input type="checkbox"/>③あまりできなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどできなかった</p>

5 事業に関する意見収集の成果について

意見収集の方法・成果	事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。
	プログラムを通してのアンケートを最終日に実施。また、各回ごとにもアンケートを実施。Googleフォームを活用し、アンケート結果を集計。 また、プログラム最終日の振り返りワークショップにおいて、中高生自身の活動の振り返りに加えて、当プログラムへの感想や意見をヒアリングした。最終日に参加できなかった中高生とは、個別面談を実施してヒアリングした。
	参加者のうち、どのくらいの人数から感想や意見を集めることができましたか。
	プログラムを通してのアンケートは、参加者全員から回収した。各回ごとのアンケートの回答率は90%程度(15人程度)だった。
	貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。
	<p>①印象に残った場面や体験</p> <ul style="list-style-type: none"> みんな真剣に頑張ってたので良かったです。また、ミーティング時間をもうちょっととると、気候変動に関する知識が深まったかなと感じました 当日に小学生と触れ合えたことが印象に残っている。 子供達が協力し合って、ゴミ拾いする場面が印象に残りました。 小学生がクイズやすごろくを楽しんでくれて嬉しかった。まち歩きで高円寺のことを知れて、地域への帰属意識が高まったと思う。 チラシ作りで、イベントの名前を考えるところです。 それぞれのワークショップですごくわかりやすい講師の方が来て下さって、聞く話全てで学びを得られた。 <p>具体的にあげるなら、最初のワークショップで、中尾根さんのワークショップの進行方法がすごく参考になって、今後に活かしたいと思ったことや、酒井さんの貴重なお話やそのあとの質問した時にも楽しく話せたことです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークショップで子供たちが自分の作ったアップサイクルの作品をどう？と見せてきてくれた時 実際に小学生に作り方を教えてる時 リハーサル 年齢問わず、話し合いができたこと。 環境問題に対する知識をワークショップで楽しみながら身につけてもらうことを目的として行っていた中で、二択クイズでは自分の今持っている知識を初対面の子同士で話し合っている場面が印象に残りました。また、ワークショップを終えて参加した小学生・保護者の方に「楽しかったです。ありがとうございました」と言っていたのが印象に残りました。 自分自身でイベントの運営をするとき
	<p>②プログラムにおいて改善してほしいことや、もっとやってほしいことなど</p> <ul style="list-style-type: none"> 海洋問題について 欠席が多い人が多く、情報共有ができていなかったため、もう少し欠席が少なくできるような工夫があったらいいなと思った。また、まち歩きでの体験が活かせるようなものがあるといいなと思う。 イベント当日までの準備時間をもっと長くしてほしい。 ここが悪いな、というより、もっと時間が欲しいなと思いました。 <p>予め決められている以外の予定を立てるのは簡単ではなく、もともと設けられているワークショップの回数がもう少し多ければ余裕が持てたと思いました。</p> <p>だからといって学び編の回数を減らして欲しいという訳ではなく、実施する内容に関して対面で吟味する時間がほしかったです。</p> <ul style="list-style-type: none"> チームが決まってプログラムとして決められた日程の中でワークショップの準備ができるのがリハを含めずに1回だったため、準備期間が足りないなと感じました。もちろんチームで自主的に集まるのも重要だと思いますが、それだと人数にも限度があるため、プログラムとして2日以上は準備期間が欲しいなと思いました！ ラインでの個人的なやりとりについて、中学生以下の人達への対応
	<p>③その他感想・質問など</p> <ul style="list-style-type: none"> みんな真剣に頑張ってたので良かったです。小学生も積極的だったから楽しめたと思います。 3ヶ月間、楽しいプログラムを体験させていただきありがとうございました。 受験で参加出来ませんが、時間が出来次第またこれらのイベントの企画に参加したいです。 また谷村さんやあんなさんと会いたいの、。。。 本当に楽しくて、今後のためになりまくりました。 自分1人で絶対にはれなかったであろう内容を楽しく学べたので参加出来てすごく良かったな、と思いました。 また絶対参加します。 初めてプログラムの企画者側になって裏側を知ることができて楽しかったです。 このプロジェクトを通して、協力することが楽しいことが分かった。ありがとうございました。 ありがとうございました。
	意見収集の活用
	収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。
全体的に参加していた中高生と、休みがちだった中高生に分かれた点、企画の時間が短かった(自主的に集まって取り組むことを想定していたが、そうならなかった)点の指摘が多かったため、プログラムの時間配分や、実施期間(3ヶ月で10日間から、夏休みに5日間連続など)の変更を行いたい。 また、今回は中高生の利用率が高いLineを連絡ツールにした(メールだと連絡が難しいと想定)が、中学生で2名Lineを持っていない人がいたため、毎回親を経由して連絡することになり苦労した。連絡手段を検討したい。	

6 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	課題: 中高生の参加率のばらつきとその対応に苦慮したため、プログラム日程に抜本的改善をしたい。また、ほとんどが私立中高の生徒だったので、より幅広い学校の生徒に参加いただけるよう、次年度までに区内公立高校との関係性を深めたい。今回、チラシの掲示はしていただいたので、これをきっかけに振り返りの挨拶などで打ち合わせを実施し、関係性構築を狙う予定。 今後の活動: 前述の通り学校との関係性構築を行いながら、プログラムの日程を変更した上で第2回を実施したい。今回の参加者の中には、次回は企画側に関わりたいたいと言ってくれている中高生もいるので、ぜひ当事者の視点も取り入れて改良したい。
-----------------	---

★具体的な活動風景の写真などを貼付



8 収支決算

事業費	[D]	308,136	助成金	[E]	189,977
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入					
団体負担金		393,000		77,659	
参加費・資料代等		80,000		40,500	参加費@500×81名
その他の収入					
計	[C]	473,000	[F]	118,159	自己資金等
助成金	[B]	300,000	[E]	189,977	NPO活動資金助成金
合計	[A]	773,000	[D]	308,136	

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)			50,000	4,092	研修外部講師謝礼(10,000円×5人)+源泉所得税
				22,000	主催団体スタッフ謝礼
			85,000	8,692	協力団体スタッフボランティア謝礼(2,000円/回×12人)+源泉所得税
小計	135,000	95,000	135,000	34,784	
②旅費・交通費			3,000		研修講師交通費(電車・都内1,000円×3人)
小計	105,000	215,000	3,000	0	
③備品費・消耗品費				1,500	フードロスを学ぶワークショップ(重曹・コンロ・フライパン等)
				3,952	アップサイクルを学ぶワークショップ(接着剤・はさみ・布・水のり・風鈴等)
			20,357	6,230	気候変動を学ぶワークショップ(炭素キーパー・実験用二酸化炭素等)
小計	40,000	80,000	20,357	20,242	プログラム実施備品(ふせん・クリアファイル・名札等)
④通信運搬費				9,870	送料(チラシを学校へ発送)※区内小学校40・中学校23・高校19
小計	0	35,000	0	9,870	
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)			12,310		中高生向けチラシ印刷費用
			11,310		SDGsフェスタin高円寺チラシ(小学生向け)印刷費用
小計	12,000	0	23,620	0	
⑥使用料・賃借料			8,000	3,000	SDGsフェスタin高円寺会場(8/5-6高円寺北区民集会所・コミュニティふらっと馬橋)
				2,800	リハーサル会場費用(7/23高円寺北区民集会所・コミュニティふらっと馬橋)
				20,000	プログラム会場費用(7/18高円寺&tenna・7/2高円寺中央会議室)
小計	8,000	48,000	8,000	25,800	
⑦その他の経費				12,760	広告宣伝費(Activo2ヶ月分利用料)
				880	振込手数料(ゆうちょ銀行/謝礼支払時)
				2,141	保険料
小計	0	0	0	15,781	
合計	[B]	[C]	[E]	[F]	110,023 戻入額[B]-[E]
	300,000	473,000	189,977	118,159	
	[A]	773,000	[D]	308,136	

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

助成金対象事業報告書(令和5年度)

団体名	特定非営利活動法人ROOF
事業名	子どもの凸凹見える化(アセスメント)事業
事業(該当区分に○)	①. スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	相談窓口を開設し必要に応じて日本版KABC-II検査及びWISC-V知能検査を子どもに実施する。発達特性による凸凹を視覚化することで、必要な支援や配慮について家庭および学校現場と連携した伴走支援を行なうことが可能となる、生活を送る上での困難、不登校やそれに準ずる状態の抑止、解消を目指す。
事業目的	子どもが感じる「生きづらさ」に寄り添い、発達特性による凸凹を可視化することで伴走支援し、地域専門施設および地域団体と連携しながら具体的支援に繋げることを目的とする。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 【対象者】杉並区内の小学1年生～中学3年生28620人のうち学校や生活に困難を抱える児童生徒とその養育者 【対象人数】月に平均8人の伴走支援を目指す。(述べ人数48人)	発達の凸凹から困りごとがあるお子様への伴走支援を目的としたアセスメント事業を開始する予定でしたが活動場所の改装と整備に予想以上の時間を要することが解体作業の段階で発覚しました。お子様へ心理検査を実施するという点ではアクセスの良さやプライバシー保護の担保そして場所が持つ雰囲気、お子様と養育者様への心理的安全性に繋がることから同じ条件のもとで別の場所を探すことは容易ではなく、誠に残念ではありますが年度内での事業開始は困難だと判断し活動助成を辞退させていただき運びとなりました。
	②実施内容 当団体相談窓口(オンライン相談窓口、SNS、フリースクール事業を通じて)から相談希望者に対して発達相談、心理検査、伴走支援を行う。	実施に至りませんでした。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 【実施回数・スケジュール】 祝日を除く週末の10:00～15:30で開室し、月に8日程度予約制で実施。(助成期間では9月～2月の半年間で48日間実施予定、その後も事業は継続する) 【実施場所】 東京都杉並区高円寺南一丁目2番地3号2階	実施に至りませんでした。
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) 【講師】公立小学校勤務1名、児童指導員(公立中学校勤務経験有)1名、私立中高一貫校養護教諭1名、心理士(会員1名、業務委託2名)、看護師1名、米国ECE(保育士)資格者1名、一般社団法人HAT認定HSC/ハッピーアドバイザー1名が携わる。 ※心理検査については1日開催につき、心理士1名、受付事務スタッフとして、1名を配置する。 【参加費】相談窓口での相談間無料、必要に応じて専門機関に繋ぐ等の伴走支援を行なう。心理検査は1件につき、30,000円(初回面接、検査実施、検査結果報告書作成、検査結果から見える解説書作成、それに基づく検査結果フィードバックまでを含む)。	実施に至りませんでした。
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) 当団体HP、Instagram、Facebook等のSNSでの広報活動及び地域向けイベント実施、子どもの凸凹見える化(アセスメント事業)のリーフレット作成配布。すぎなみフェスタへの参加及びすぎなみ協働プラザ、杉並区立済美教育センターへのリーフレット配架依頼、協力機関である杉並区阿佐ヶ谷のころとからだ光の花クリニックでのイベント開催。	2023年8月23日に杉並区阿佐ヶ谷のころとからだ光の花クリニックにて「ROOF立ち上げ応援座談会」を開催し、中野区児童相談所職員、子どもの居場所いるか家代表、杉並区保護者、心理士、その他合計10名が参加。その後オンラインでも配信を行いました。当団体HP、SNSにて改装工事の進捗状況を配信していました。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後		
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。				
		杉並区立小中学校では令和3年度704名の不登校児童生徒がおり、年々増加傾向にある。そのうち、当団体を知った3名の保護者から要望を受け、伴走支援をする中で、不登校の子どもとご家族の抱える困りごとはその原因がわからずに適切な対処方法がわからないことだとわかった。支援を必要としても制度の狭間にいるため支援が行き届かない、専門的知識を持つスタッフの不足、発達障害がある児童生徒への診断および治療を担う医療療育機関の不足、待機問題、病院受診へのハードルの高さがかがえた。	事業が実施できなかったため、効果測定ができませんでした。		
		【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください			
		<input type="checkbox"/> ①あった	<input type="checkbox"/> ②概ねあった	<input type="checkbox"/> ③あまりなかった	<input checked="" type="checkbox"/> ④ほとんどなかった
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。				
		当団体に携わるスタッフは、小学校勤務者及び中学校勤務経験者が中心となって活動しているため現場の状況やニーズを的確に捉え、専門職スタッフと関係機関との連携を図っている。心理士をはじめとした専門職についても設立当初より発達および子育て相談を実施しており、乳幼児期から青年期にかけての学習及び療育などの直接支援や家族支援、相談支援等幅広く携わってきた背景もあり、アセスメントの実施、必要に応じた心理検査の実施が可能。児童支援への支援に留まらず、家族支援、学校との連携など包括的なサポートが可能、地域医療機関との関係構築も進めている。	活動の実施にいたりませんでした。		
		【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください			
		<input type="checkbox"/> ①できた	<input type="checkbox"/> ②概ねできた	<input type="checkbox"/> ③あまりできなかった	<input checked="" type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった
	当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。				
		地域における気軽な相談窓口として機能することで、潜在的な児童生徒及びその養育者を地域の学校やフリースクールへ繋げ、学習支援ができるようになる。その結果、孤独孤立を解消し、特性を活かした進路の選択肢を増やすことができるため、将来的な進学者・就労者の増加が期待できる。	事業が実施できなかったため、効果をあげることができませんでした。		
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください				
	<input type="checkbox"/> ①できた	<input type="checkbox"/> ②概ねできた	<input type="checkbox"/> ③あまりできなかった	<input checked="" type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった	
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。					
	事業未実施				
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください				
	<input type="checkbox"/> ①広がった	<input type="checkbox"/> ②多少広がった	<input checked="" type="checkbox"/> ③広がらなかった		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>発達の凸凹から困りごとがあるお子様への伴走支援を目的としたアセスメント事業を開始する予定でしたが活動場所の改装と整備に予想以上の時間を要することが解体作業の段階で発覚しました。お子様へ心理検査を実施するという点ではアクセスの良さやプライバシー保護の担保そして場所が持つ雰囲気、お子様と養育者様への心理的安全性に繋がることから同じ条件のもとで別の場所を探すことは容易ではなく、誠に残念ではありますが年度内での事業開始は困難だと判断し活動助成を辞退させていただく運びとなりました。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input checked="" type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>すぎなみフェスタに参加することで、杉並区MPO支援基金普及活動の声掛け、周知、リーフレット配布の協力を行ないました。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input checked="" type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

5 事業に関する意見収集の成果について

意見収集の方法・成果	<p>事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。</p> <p>未実施</p>
	<p>参加者のうち、どのくらいの人から感想や意見を集めることができましたか。</p> <p>未実施</p>
	<p>貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。</p> <p>未実施</p>
意見の活用	<p>収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。</p> <p>未実施</p>

6 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	<p>活動場所の改装と整備に予想以上の時間を要することが解体作業の段階で発覚したことで、大幅な変更が伴い、事業実施を開始することを断念することとなりました。当事業はお子様へ心理検査を実施するという点で、アクセス、プライバシー保護の担保が特に重要であるため、場所選定や事業構想段階から検討を重ねて参りました。団体内はもちろんのこと、協力機関や協力者と密にコミュニケーションを重ねてまいりましたが、結果的に遂行できなかったという事態を重く受け止め、新たためて計画の見直し及び実行可能性について精査を重ね、今後もだれもが「わたし」でいられる世界をビジョンに掲げ、活動の輪を広げていくことに尽力していきたいと考えております。</p>
----------	--

7 活動状況について

団体名: 特定非営利活動法人ROOF

★具体的な活動風景の写真などを貼付
未実施



8 収支決算

事業費	[D]	0	助成金	[E]	299,000
-----	-----	---	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
団体負担金		0		0	
参加費・資料代等		1,440,000		0	
その他の収入					
計	[C]	1,440,000	[F]	0	自己資金等
助成金	[B]	299,000	[E]	0	NPO活動資金助成金
合計	[A]	1,739,000	[D]	0	

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)					
小計	0	1,166,400	0	0	
②旅費・交通費					
小計	96,000	96,000	0	0	
③備品費・消耗品費					
小計	191,950	16,500	0	0	
④通信運搬費					
小計	8,030	1,392	0	0	
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)					
小計	3,020	0	0	0	
⑥使用料・賃借料					
小計	0	0	0	0	
⑦その他の経費					
小計	0	0	0	0	
合計	[B] 299,000	[C] 1,280,292	[E] 0	[F] 0	299,000 戻入額[B]-[E]
	[A]	1,579,292	[D]	0	

☆ 注意事項【1】単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。【2】団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

助成金対象事業報告書(令和5年度)

団体名	特定非営利活動法人グローイングピープルズウィル
事業名	ICT(コード化点字ブロック)活用視覚障害者誘導
事業(該当区分に○)	1. スタートアップ事業 (2.)ステップアップ事業
事業概要	ICT(コード化点字ブロック)を活用して単独歩行する視覚障害者を誘導する。荻窪駅からアイプラザまで約800mの区間には既に点字ブロック(誘導ブロックと警告ブロック)が敷設されており警告ブロックを有効活用することによって単独歩行をする視覚障害者が安心して目的地に到達できることを実証する。当事者のニーズに応えるよう今後の杉並区バリアフリー施策に反映させる。
事業目的	ICT(コード化点字ブロック)を活用して視覚障害者の移動円滑化と情報提供を可能であることを実証する。アイプラザは、JR荻窪駅から約800mの距離に立地しており、点字ブロックが敷設されているものの視覚障害者が単独で移動することは非常に困難な状況である。この状況を改善するとともに、視覚障害者のスマホ利用を促進する。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 対象者: 視覚障害者(現在、アイプラザに単独歩行している視覚障害者、杉並区在住のユニバーサルデザインに関心ある視覚障害者)10名~15名 全員、敷設前と敷設後の2回協力。 他、関心のある視覚障害当事者には個別に対応する。	対象者: 視覚障害者(アイプラザに単独歩行している視覚障害者 4名、杉並区在住のユニバーサルデザインに関心ある視覚障害者 10名) 全員、敷設前と敷設後の2回協力。 他、関心のある都内当事者団体、視覚者関係団体が視察に訪れ、多くの視覚障害者が経験をしに訪れた。
	②実施内容 公道(荻窪駅-アイプラザ間 延長850m)における実証実験を行う。単独歩行している視覚障害者にルートを確認し、インタビューを行う。これを基に、コード化点字ブロックを10箇所貼付する。視覚障害者10名を被験者としてこの有効性の確認を行う。	事業計画に加え、10名の被験者に実施した後、音声案内を改良し、当法人職員がアイマスクをして同区間を往復した。その模様を動画撮影した。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 6月 荻窪駅からアイプラザまで、現時点で単独歩行をしている視覚障害者(5名程度)にインタビューするとともに、いつも通りにこの区間を歩く様子と彼らの意見を参考にコード化点字ブロック敷設箇所と音声内容を(仮)決定する。計3日程度 7月 アイプラザ利用者、杉並区在住の視覚障害者(合計10名程度)とこの区間を一緒に歩く。その際に(仮)貼付・音声案内案を提示し、案を確定する。計4日程度 8月 コード化点字ブロックの添付位置と内容の決定 9月~11月 実証実験を行う。計 8日程度 添付期間については、管理者との話し合いによる希望としては上記の通り。コード化点字ブロックを貼付しており誰もが体験できる。 12月以降 結果検証・報告書作成	7~9月 荻窪駅からアイプラザまで、現時点で単独歩行をしている視覚障害者(4名)にインタビューするとともに、いつも通りにこの区間を歩く様子と彼らの意見を参考にコード化点字ブロック敷設箇所と音声内容を(仮)決定した。計4日 9月 Walk&Mobility社と 貼付位置、音声案内の確認を行った。 11~1月 10名の視覚障害者とこの区間をコード化点字ブロックを活用しないで歩行することと活用して歩くこと2往復を行った。 2月以降 結果検証・報告書作成
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) 会場での責任者: 当法人職員 他1名	会場での責任者: 同左
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) 当法人の通信掲載 視覚障害者団体へ通知等	杉並区ホームページ掲載 当法人の通信掲載 視覚障害者団体へ通知等

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。		
		<p>まずは、アイプラザに通う視覚障害者が安全に安心して単独歩行できるような環境を求める声がある。</p> <p>次に、国だけでなく杉並区もICTを活用することで移動制約者の移動円滑化を図ろうとしている。よって、当事者と自治体、二つの大きなニーズがある。</p>	<p>アイプラザを利用する視覚障害者が安全に移動できる環境はできることが分かったが、自治体、地元との合意形成が必要。(比較的安全なルートがあることが判明した)</p> <p>ICTを活用することで視覚障害者の移動を支援できることが分かった。</p>
		<input checked="" type="checkbox"/> ①あった <input type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。		
		<p>当法人は、様々な分野で視覚障害者支援を行っている。またアイプラザが経営する杉並区立杉並視覚障害者会館では、点字教室、料理教室、研修会、講演会、施術など視覚障害者が社会参加する活動を行っており、本来ならより多くの視覚障害者が移動しているはずである。</p> <p>他、この地域周辺は(社福)視覚障害者支援総合センター、(NPO)スラッシュなど視覚障害関連施設が立地することで多くの視覚障害者が移動をする環境にある。</p>	<p>杉並区視覚障害者福祉協会、(社福)視覚障害者支援総合センター、(NPO)スラッシュと連携し、杉並区在住者だけでなく区外の視覚障害者にも経験していただいた。</p>
		<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった	
	当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。		
		<p>杉並区と連携をとって移動制約者の移動円滑化を進めており、バリアフリー化を進める。</p> <p>多くの視覚障害者がまちに出ることにより、一般区民の障害者への関心が深まり、誰もが住みやすい社会になる。それと同時に、「歩きスマホ」の議論ができるような下地づくりを行っている。</p> <p>昨年度もICT(ナビレンス)を活用して視覚障害者の移動円滑化を図る実証実験を行っている。この事業は、ぼんやりしたニーズ(視覚障害者がウインドショッピングをしたいという夢のようなニーズ)に対応する形実施したが、今回は目の前にあるニーズ(安全に、荻窪駅からアイプラザまで単独歩行する)に対応する事業である。</p>	<p>杉並区とは令和6年度から協働提案事業をすすめることになり、移動制約者の移動円滑化を進める。</p> <p>実証実験中、通行する杉並区民の方に視覚障害者、またICT機器の存在を伝えることができた。</p> <p>これから、杉並区視覚障害者福祉協会に完了報告を行う。</p>
		<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった	
	今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。		
	<p>コード化点字ブロックが公道上に敷設されていることで、多くの杉並区民の目に触れたと考える。当然、何をやっているのかは分からないが、今後も当法人が発信する情報に触れることで理解していただけると考える。</p> <p>視覚障害者福祉協会会員に発表する場を与えてもらえれば、会員の方もスマホを持つきっかけになると考える。</p> <p>協力者(東京都建設局第3建設事務所、荻窪警察)にコード化点字ブロックを通じて、視覚障害者の単独歩行に関して少しは関心を持っていただいたと思う。</p>		
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <input checked="" type="checkbox"/> ①広がった <input type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>被験者の健康に配慮して、7月の実証実験は延期して2回目の実証実験の日に1回目と2回目の歩行を同時に行った。</p> <p>点字ブロックの破損がひどかったため終点のアイプラザに添付できなかった。</p> <p>この2点を除くと予定通りに実施できた。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>広報すぎなみ、杉並区ホームページ、当法人、スラッシュ、杉視協、支援センター、わかから情報発信し、普及活動を行った。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

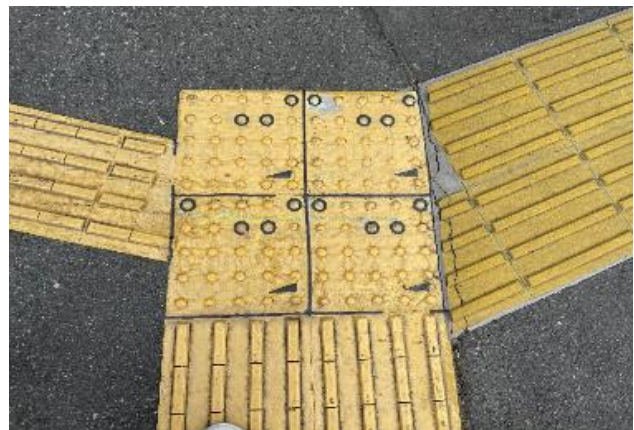
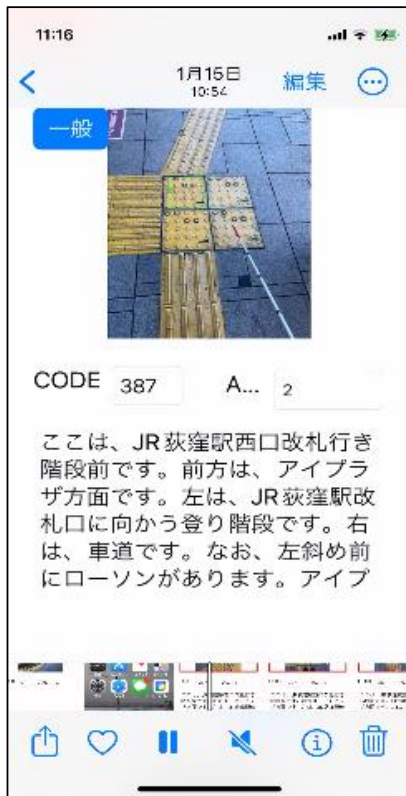
5 事業に関する意見収集の成果について

意見収集の方法・成果	<p>事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。</p> <p>実証実験参加者は14名。4名は杉視協会員、10名は杉並区民、皆さん視覚障害者だが、感想や意見は対面で聴取した。</p> <p>また、実験参加者以外の参加者、当事者団体からは電話やメールで連絡を頂いた。</p>
	<p>参加者のうち、どのくらい的人数から感想や意見を集めることができましたか。</p> <p>実験参加者14名、全員から集めた。</p>
	<p>貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。</p> <p>実験参加者からは、今後も引き続き移動制約のバリアを取り除く協力をするとのお申し出を頂いている。参加者以外の当事者や団体からは、以下のような協力要請や情報共有を求められた。</p> <p>ある区の当事者団体からは、同じような実証実験を行いたい、区に対してどのように働きかけたのか、またどのように実証実験を進めたのか教授願いたい。ある区の当事者団体からは、今回の実証実験の結果を教えていただきたいとの情報提供を求められた。</p>
	<p>収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。</p> <p>移動制約者のための施策に対して、正しく移動制約者の意見を聴取する。</p> <p>また、移動制約者の意識、能力の向上を行う。</p>
意見の活用	

6 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	<p>現在は、ICTの活用なしに、晴眼者との情報格差はもちろん、視覚障害者間での情報格差が広がるため、できるだけ多くの視覚障害者にスマホを持って活用していただく活動を行っていく。</p> <p>当法人の目的である視覚障害者の外出保障、情報保障の活動を一般杉並区民に伝えながら行っていく。</p>
----------	---

□



8 収支決算

事業費	[D]	422,454	助成金	[E]	300,000
-----	-----	---------	-----	-----	---------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金	201,250	122,454		団体負担金
	参加費・資料代等				
	その他の収入				
	計	[C] 201,250	[F] 122,454		自己資金等
	助成金	[B] 300,000	[E] 300,000		NPO活動資金助成金
	合計	[A] 501,250	[D] 422,454		

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)				46,774	被験者 謝金3,341円/人・回 14人(=4人+10人) うち、1名は法人職員のため支払い無。
	小計	90,000	0	46,774	
②旅費・交通費					
	小計		0	0	
③備品費・消耗品費				10,000	触知模型作成費
	小計		0	10,000	
④通信運搬費					
	小計		0	0	
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)				10,000	印刷費
	小計	10,000	0	10,000	
⑥使用料・賃借料			300,000		コード化点字ブロック使用・管理料・設置費・撤去費
	小計	300,000	300,000	0	
⑦その他の経費				55,680	スタッフ 5,568円/回 10回 うち、1名は法人職員のため支払い無
	小計	101,250	0	55,680	
合計			300,000	122,454	0 戻入額[B]-[E]
	[B] 300,000	[C] 201,250	[E] 300,000	[F] 122,454	
	[A] 501,250		[D] 422,454		

☆ 注意事項【1】単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。【2】団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

助成金対象事業報告書(令和5年度)

団体名	特定非営利活動法人 障害者就労支援センター どんまい福祉工房
事業名	中学生高校生の居場所「寺子屋学ぼう」
事業(該当区分に○)	1. スタートアップ事業 (2.)ステップアップ事業
事業概要	毎月第1・3水曜19時から20時、自由に参加できる寺子屋を実施。学力向上だけでなく、発想力や企画力を身につけ自分の得意分野の発見などにつながるよう、企業で働く講師を招き社会教育の場とする。また民間の塾などに経済的または学力の課題等で通うことが出来ない人でも気軽に参加できる場所とし、地域教育のモデル事業としてゆく。
事業目的	様々な学習機会を提供することにより豊かな人間性の形成を図ると共に、地域ぐるみで教育・学習をサポートすることにより地域の教育力向上を図る。 また、今後寄付を募り本事業に充てようと考えており、将来的な寄付文化の醸成を目指す。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 近隣の中～高校生を対象とする 各回約10名(延べ160～240名)	近隣の中学生・高校生 延べ参加者数134名
	②実施内容 【中学生高校生の居場所「寺子屋学ぼう」】 原則隔週水曜日に開催する寺子屋 夏・冬休みに特別編として、特別講師を招き講演を行う	【中学生高校生の居場所「寺子屋学ぼう」】 原則隔週水曜日に開催する予定であり、その通りに開催することができた。 夏の特別編はプログラム変更に伴い、団体自主事業として実施した。冬の特別編は参加希望者が集まらず、日程変更やPRを工夫し、再募集したが、参加の応募がなく、中止とした。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 場所: コミュニティふらっと馬橋 回数: 全16回 (2023/6/7,6/21,7/5,7/19,8/2,9/6,9/20,10/4,10/18,11/1,11/15,12/6,12/20, 2024/1/17,2/7,2/21)	場所: コミュニティふらっと馬橋 回数: 全16回 (2023/6/7,6/21,7/5,7/19,8/2,9/6,9/20,10/4,10/18,11/1,11/15, 12/6,12/20, 2024/1/17,2/7,2/21)
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) 大学生ボランティア毎3名 職員1名 夏・冬特別編 講師2名、大学生ボランティア3名、職員2名	コミュニティふらっと馬橋にて、該当時間のスペースを確保し実施 人員は大学生ボランティア毎3名、職員1名
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) 近隣の中学校・高校に直接周知	近隣の中学校・高校へのチラシ配架 参加学生のロコミ

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。		
		<p>昨今、児童福祉は様々な福祉問題と紐づき複雑化・高度化しており、その解消の一助として「学習機会の提供・学校や家庭以外の居場所の提供」のニーズがあると把握した。また、地域コモンスペースの創造を掲げる当法人に、子ども家庭支援センターからの要請や情報共有があった。</p>	<p>学習機会・居場所の提供といったニーズがあり、中高生の参加人数も増加していた。 また、参加学生からも直接、「家で勉強しづらい為このような居場所があると助かる」「ここに来れば誰かいるからさみしくない」といった声が聞けた。 一方で、学習塾に通う余裕のない家庭に対する代替的な居場所の提供といったニーズに関しては、実施している中でより実践的な学習機会の提供が望ましいといった判断になったものの完全にニーズを満たすことはできなかった。</p>
		【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください	
		<input type="checkbox"/> ①あった <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねあった <input type="checkbox"/> ③あまりなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかった	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。		
		<p>当法人は障害者支援を行っており、“生きづらさ”に対しての理解・ノウハウがある。 また、コミュニティふらっと(身近な地域の方が集い、世代を超えて交流する場となる施設)の運営管理受託業務を行っており、当事業とのシナジーがある。</p>	<p>実施団体がどんまい福祉工房だという理由で参加している学生もおり、インクルーシブ社会実現をミッションに掲げている当法人の特性は活かした。 また、当法人が運営しているコミュニティ施設を利用されている高齢者団体から、「寺子屋事業に興味がある」「講師として参加したい」といった声もあり、今後ますます団体・地域特性を活かした事業になる展望が見えた。</p>
		【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください	
	<input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。			
	<p>(助成を受けることによる団体活動や事業発展への効果(継続性・発展性)) 当事業を通して、複雑化・高度化する児童福祉に対し手を差し伸べるキッカケづくりとなる。また、当法人の活動目的である「地域コモンスペースの創造」にもつながる。 今後寄付を募り当事業に全額充てる予定であり、地域の寄付文化醸成につながると期待している。</p>	<p>参加学生の増加や居場所としてのニーズに満足しているとの直接の声から、寺子屋事業がインクルーシブ社会分野における児童福祉領域の入り口になるということに関しては期待される効果があったと感じる。 一方で、寄付については進捗が芳しくなく、寄付文化醸成といった効果に関しては想定通りの効果をあげることができなかった。</p>	
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input checked="" type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。			
	<p>理解者については、地域コミュニティ施設の高齢者団体から「寺子屋事業に参加したい」との声をいただけたことで、着実に広まっていると感じる。 支援者については、直接的な寄付は増加していないことから広まっていないと感じる。</p>		
	【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください		
	<input type="checkbox"/> ①広がった <input checked="" type="checkbox"/> ②多少広がった <input type="checkbox"/> ③広がらなかった		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>事業計画としては、定例開催のものについては計画通りに開催できた一方、特別編については様々な事由により計画通りの開催とはならず、内容の変更や開催取りやめとなった。 想定したニーズには対応することができ、理解者の拡大をすることもできたが、直接的な支援者は増加させることができなかった。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>普及活動として、のぼり設置・リーフレット配布・募金活動・イベントでのアナウンス・タペストリー設置を実施した。 寺子屋参加学生にも、リーフレットを配布し当事業が「杉並区NPO支援基金」の助成事業である旨を周知した。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった</p>

5 事業に関する意見収集の成果について

意見収集の方法・成果	<p>事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。</p> <p>事業実施中、参加者に対して声をかけた。また、助成事業末の開催回で参加者に感想を述べてもらう時間を設けた。</p>
	<p>参加者のうち、どのくらいの人から感想や意見を集めることができましたか。</p> <p>全体を通して約12名から感想や意見を集めることができた。</p>
	<p>貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家で勉強しづらい為このような居場所があると助かる ・ここに来れば誰かいるからさみしくない ・他学校の生徒と交流できて嬉しい ・大学生や社会人と話す機会はなかなかない為、参考になった ・勉強をしたあと、コミュニケーションゲームなどで交流を深めることができた ・地域のコミュニティ施設を使ったことがなかった(存在を知らなかった)ので新鮮だった ・もっとしっかりと勉強を教えてもらえるとありがたい ・勉強以外にも学校で習わないことや将来の職業選択に関わることなどの話を聞きたい
意見の活用	<p>収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。</p> <p>「もっとしっかりと勉強を教えてもらえるとありがたい」といった意見には、わからない箇所や教えてもらいたい箇所を大学生ボランティアと相談し、次回までにしっかりと教えられるよう準備をした。これにより、参加学生とボランティアの交流を活発化することができた。 また、「勉強以外にも学校で習わないことや将来の職業選択に関わることなどの話を聞きたい」といった意見により、夏の特別編の内容をより実践的なものに変更することで参加学生の満足度を高めることができた。</p>

6 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	<p>今後の課題としては、「参加学生の新規獲得および定着」と「直接的支援者(寄付者)の獲得」が挙げられる。 「参加学生の新規獲得および定着」については、ただの居場所提供にとどまらず、より実践的なカリキュラム(クラウドファンディングをやってみよう、〇〇を作って地域で販売してみよう等)の提供を検討している。上記カリキュラムにより、クラウドファンディングや地域での認知活動を通し「直接的支援者(寄付者)の獲得」の実現も目指す。</p>
----------	---

7 活動状況について

団体名: 特定非営利活動法人 障害者就労支援センター どんまい福祉工房

★具体的な活動風景の写真などを貼付



8 収支決算

事業費	[D]	117,180	助成金	[E]	40,860
-----	-----	---------	-----	-----	--------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入					
団体負担金		56,028		76,320	団体負担金
参加費・資料代等					
その他の収入					
計	[C]	56,028	[F]	76,320	自己資金等
助成金	[B]	210,000	[E]	40,860	NPO活動資金助成金
合計	[A]	266,028	[D]	117,180	

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)			27,000	21,000	大学生ボランティア@3,000×16人
				20,000	講師謝金(夏の特別編)
小計	120,000	54,000	27,000	41,000	
②旅費・交通費					
小計	0	0	0	0	
③備品費・消耗品費			2,860		参考書
小計	20,000	1,450	2,860	0	
④通信運搬費					
小計	0	0	0	0	
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)			11,000	22,000	デザイン費
				8,129	チラシ印刷費
				5,191	チラシ印刷費
小計	70,000	578	11,000	35,320	
⑥使用料・賃借料					
小計	0	0	0	0	
⑦その他の経費					
小計	0	0	0	0	
合計			40,860	76,320	169,140 戻入額[B]-[E]
	[B]	[C]	[E]	[F]	
	210,000	56,028	40,860	76,320	
	[A]	266,028	[D]	117,180	

☆ 注意事項【1】単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。【2】団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

助成金対象事業報告書(令和5年度)

団体名	特定非営利活動法人 プロップK
事業名	みんなで創る！スマホ体験型コミュニティ
事業(該当区分に○)	1. スタートアップ事業 <input checked="" type="radio"/> 2. ステップアップ事業
事業概要	急激なデジタル化社会に不安を抱える高齢者だけでなく、子どもの安全なスマホ利用、IT活用が遅れている福祉現場など、それぞれの問題解消のため、専門指導員を派遣し、事業を実施する。事業では、スマホの利便性を楽しく体験できるようにレクリエーション要素を盛り込み、また子どもと高齢者が交流をしながら、身近となったスマホを学ぶ。
事業目的	多世代によるスマホ交流イベントを開催し、各自がデジタル機器を安心して利用できる機会を提供する。距離や環境を超えた交流を生み出すITの効果を理解してもらうことにより、IT機器の普及活動の担い手を育成する。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) (1)8月18日 高齢者と子ども 定員20人を2講座 計40名 (2)12月19日 イベント体験参加者(コミュニティふらっと成田)と高齢者施設(さんじゅ久我山)入所者	(1)8月18日 10名 (2)12月19日 コミふら成田42名 さんじゅ久我山22名
	②実施内容 (1)おとなも子どもも安全に楽しく遊ぶアプリゲーム体験 認知症予防に対するゲーム効果、脳トレアプリや動物タワーバトルなどを活用して高齢者と子どもの交流を促す。危険な広告の見分け方、スマホルールの作り方、ダウンロードの注意点等の指導 (2)どこにいてもつながる楽しさZOOMで交流 福祉施設のIT活用も向上させていけるよう講師の派遣も行う。だれでも楽しめるITを使った地域交流イベントとして実施する。	計画通り実施
	③実施回数・スケジュール・実施場所 (1)8月18日 午後1時～、午後3時～ コミュニティふらっと成田 (2)12月19日 午後2時～ コミュニティふらっと成田、さんじゅ久我山	(1)8月18日 午後1時～2時30分、午後3時～4時30分 コミュニティふらっと成田多目的室 (2)12月19日 午後2時～3時30分 コミュニティふらっと成田、さんじゅ久我山
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) (1)8月18日 講師1名、アシスタント2名 (2)12月19日 講師2名、アシスタント2名	(1)8月18日 講師1名、アシスタント2名 (2)12月19日 講師2名、アシスタント2名
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) 広報や協力団体などを利用した紙周知 夏休みイベントとしての学校配布	子どもの保護者世代も意識し、HPや講師配信のSNSなども利用 紙のチラシは、会場や関連事業所での配布。近隣へのポスティングや町会掲示板を利用。社協や地域教育関係者協力のもと配布。 杉並第二小学校は、全校配布を実施

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
	<p>コロナ禍でデジタル活用した非接触型の生活モデルが普及し、デジタル化した日常を構築されていく様を見聞きすることになった。中高年の多くが、それまでの「デジタルなどでできなくても困らない」という感覚から、「できないと困ることになる」という不安感を持ち始めた。それらの中高年が自らの意思でデジタル生活へ踏みだしていくには、身近な生活圏内で同じ気持ちの人と一緒に楽しく体験できる事が必要と考えた。</p>	<p>8月ゲーム体験をする事でスラッシュや転回など高齢者の指先の作業が早くなったと実感していた。また無料の文字操作ゲームなども教わったためか、継続意欲も見せていた。一方子ども同伴者からは、最後のゲームのし過ぎによるマイナス面などの話がとてもよかったという声があった。</p> <p>8月の参加者は少なかったが、その参加者とのグループラインを利用し、それを発端に友人知人に12月事業のことが広がり、予想以上の参加を迎えることとなった。紙ベースのチラシよりデジタルと口コミがが強力と実感。インスタグラムやXなどの利用講座を実施する必要性を感じた。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/> ①あつた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねあつた <input type="checkbox"/> ③あまりなかつた <input type="checkbox"/> ④ほとんどなかつた</p>	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
	<p>区内のゆうゆう館やコミュニティふらつとの施設運営受託により、会場手配や参加者周知に強みを持つ。今回の協力企業とは、長年ゆうゆう館事業において協働し、事業目的の共有もしっかり行っている。19年の活動実績により企業やボランティア団体、その他地域団体と多角的に協力を得られるという特性も生かし、事業を進展させていくことができる。</p>	<p>参加者から「あちこちのスマホ講座に行っているのだが、今日初めて本当にスマホが使いそうな気になった。この歳でも楽しいものだ」という言葉を直接聞いた。学校配布による児童生徒の参加は、周知タイミングを逃した感があった。</p> <p>12月のイベントでは、高齢者施設側の意向を加味しつつ、コミふら成田に来場する高齢者にも喜ばれるものと企画したが、施設にいる高齢者との違いはなかった。それが逆にお互いの盛り上がりになっていった。「違うより同じ」であることが「楽しい」につながることは予想通りだった。さらにお互いの顔が見えたという実感もあった。交流＝楽しいというキーワードは重要だと思った。できれば今後「違って楽しい」という形の「発見」を生み出せるようにしていきたい。</p>
	<p><input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかつた <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかつた</p>	
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。		
<p>デジタル機器の活用に自信がついた中高年は、世代や距離を超えた交流を図ることができるようになることで、孤立化を防ぐことができる。スキルを得た者から趣味や価値観を共有できる仲間を見つけ、自らその情報発信もできるようになり、新たなつながりが創出される。シニアの再就職や就業定着が促進され、働く意欲や税収向上にも貢献できる。また、そのスキルを生かした社会起業やボランティア人材などを育成する事ができる。</p>	<p>8月の事業参加者と10月に実施のスマホ講座(助成対象外)参加者でのグループLINEなどが12月の集客に多大な効果を見せたことは、前段でも記載した通りである。「スマホ講座に行ったら、楽しかった。」という参加者の発信があった。その発信に対し、「私も行ってみようかな。」という返信などのやり取りがデジタル交流の特性だと実感した事は大きな成果と言えると思う。またその体験を離れていても、同時刻に同じように体験した事実は有効だったと思っている。</p> <p>当団体へ区内の町会から講習依頼などがあつた。人材の育成まではできなかったものの、スマホなどのデジタル機器への不安感を払拭し、地域の交流を促しながら生活改善のツールとしてのスマホ利用促進という課題については、概ね目的は達成したと思う。</p>	
<p><input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかつた <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかつた</p>		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。		
<p>支援者という形ではないもののイベント事業に参加して下さった町会会長から、発災時の情報発信などスマホを使った町会活動を進めたいので、事業者を紹介してほしいと直接オファーがあつた。また個人からもネット買い物講座などの継続的に行ってほしいとの声が多く寄せられてきた。町会要望については、講師依頼した事業者と杉並区社会福祉協議会とのつなぎを行い、区内町会へ案内などができれば、組織的に災害時対応力や地域力の向上に発展できると考えていた。しかし、町会の都合により、現在止まっている状態である。状況を見定めつつ、地域推進に助力できればと思っている。</p>		
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p><input type="checkbox"/> ①広がつた <input checked="" type="checkbox"/> ②多少広がつた <input type="checkbox"/> ③広がらなかつた</p>		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>学校関係の連携が今一步であった事が反省点であるが、参加者へのアンケート結果では好評であったため、第一義的な効果はあげたと評価している。特にデジタル機器に精通していない当団体にとっても、専門家の指導を受け、実際行えた事やその交流感動を味わえた事など、今後、当団体の事業などに新たな効果をあげることができるという実感が持ったことも大きな成果だと思っている。この一步を大切に今後の地域事業に生かしていきたいと思っている。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input type="checkbox"/> ①できた <input checked="" type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>始める前はNPO支援基金など一般的にほとんど理解されていないと思っていたが、アンケートでは約半数が知っていたと答えていた。これは浸透しているというより、当団体がこの事業日以外のスマホ講座やほかの講座やイベントでも常に募金箱など設置していたからではないかと判断している。知ったきっかけの問いがなかったので立証はできないが、今回の事業によって周知することができ、普及活動は成功だったと思う。さらに12月のイベント後には、募金をいれてくださる方が多くおられ、その方にも直接お礼を言う事ができた。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> ①できた <input type="checkbox"/> ②概ねできた <input type="checkbox"/> ③あまりできなかった <input type="checkbox"/> ④ほとんどできなかった </p>

5 事業に関する意見収集の成果について

意見収集の方法・成果	<p>事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。</p> <p>イベント終了後、アンケート用紙を配布、回収した。高齢者施設は、施設職員に聞き取りをした。</p>
	<p>参加者のうち、どのくらいの人から感想や意見を集めることができましたか。</p> <p>8月10名中9名、12月42名中30名</p>
	<p>貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。</p> <p>8月おとなも子どもも安全に遊ぶアプリゲーム体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のあるゲームをやりつつ、ほどほどに!!ということも分かったようです。 ・アプリについての役立つ情報をたくさん教えて頂きました。皆さんと一緒にゲームができてとても楽しかったです。 ・スマホ講座又お願いします。本日はゲーム等目からうろこの講座でした。 ・スマホについて不確かなことが多く少しでも分かれば安心して使いたい。 <p>12月どこにいてもつながる楽しさZOOMで交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インド舞踊を初めてみて楽しかったです。 ・スタッフさん、ゲストさんみんな明るくて楽しかったです。 ・とても楽しいひと時でした。 ・楽しいイベントが沢山ありました。皆さんで笑顔になれて楽しかったです。 <p>高齢者施設の感想</p> <p>インド舞踊の足踏みなどは、映像だと迫りに欠けたように見えたが、ゲームや歌は全員とても楽しく参加できた。職員の負担も少なく、施設としてはありがたい交流方法だと思った。</p>
意見収集した活用	<p>収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。</p> <p>前段で要望(発災時の情報発信などスマホを使った町会活動を進めたい)のあった災害時のスマホ講座などを計画していく予定。町会として東京都の助成金申請を計画していると聞いていたのだが、町会の都合により活動は止まっている所である。</p> <p>個人向けの生活改善スマホ講座は、令和6年度定期的に実施していくことを決定し、要望者には通達済み。</p>

6 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	<p>専門事業者との協力事業であることは、講座の質などを維持するには不可欠であると思う反面、それらの力が区内でも同等にあることが望ましいと思う。また地域人材の育成と活用が今回事業から漏れているので、その課題を別の方法で推進することが大きな課題である。地域活動に常に事業継承という大きな課題もあり、その為にもデジタル化による若年層の参加などを進めるという大きな課題も感じた。</p>
----------	--

★具体的な活動風景の写真などを貼付



8 収支決算

事業費	[D]	128,113	助成金	[E]	98,000
-----	-----	---------	-----	-----	--------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入					
団体負担金		32,800		24,113	
参加費・資料代等		10,000		4,500	8月分 @500×9名
		12,000		1,500	8月分 @300×5名
その他の収入					
計	[C]	54,800	[F]	30,113	自己資金等
助成金	[B]	98,000	[E]	98,000	NPO活動資金助成金
合計	[A]	152,800	[D]	128,113	

費目	予算額		決算額		決算額内訳	
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費		
①謝礼金等 (講師が団体内部 の場合は対象外)			28,000		8月分講師 @7,000円×2h×1名×2回	
			24,000		8月分アシスタント @3,000円×2h×2名×2回	
			28,000		12月分講師 @7,000円×2h×1名×2ヶ所	
			12,000		12月分アシスタント @3,000円×2h×1名×2ヶ所	
	小計	92,000	0	92,000	16,000	12月分交流会出演者 @8,000円×2団体
②旅費・交通費			5,180	820	8月分 @740×3名、12月分 @740×4名	
	小計	5,180	0	5,180	820	
③備品費・消耗品費						
	小計	0	0	0	0	
④通信運搬費				3,360	連絡用切手 @84×40通	
	小計	0	16,800	0	3,360	
⑤印刷製本費 (デザイン・原 稿作成含む)				3,013	外注チラシ500部	
				3,000	自前印刷白黒3,000部リソ印刷(所有印刷機)	
小計	0	30,000	0	6,013		
⑥使用料・賃借料						
	小計	0	0	0	0	
⑦その他の経費			820	3,920	飲料(参加者・講師用)	
	小計	820	8,000	820	3,920	
合計			98,000	30,113	0 戻入額[B]-[E]	
	[B]	98,000	[C]	54,800	[E]	98,000
	[A]	152,800	[D]	128,113	[F]	30,113

☆ 注意事項(1)単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。(2)団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。

助成金対象事業報告書(令和5年度)

団体名	特定非営利活動法人まちの塾freebee
事業名	中高生のための無料学習・受験サポート事業
事業(該当区分に○)	1. スタートアップ事業 2. ステップアップ事業
事業概要	不登校や学校外に十分な学習の場を求められない中高生を重点的な対象とした無料学習支援を行う。地域の公共施設での学習支援を週1回開催し、不登校の生徒に対しては週1回程度オンライン授業を提供する。
事業目的	この授業では、中高生を対象の無料学習支援を行い塾費用の心配をせずに学習し希望する学校への合格を目指せる環境を提供することを目的とする。教育は個人の成長と社会の発展にとって重要な役割を果たしているが、貧困や不登校を理由に教育に十分アクセスできない子どもたちも存在する。教育の経験のある社会人講師により無料学習支援によって教育機会の平等性を高め、また学校の授業や課題を補完することにより理解を深め、自信をもって勉強に取り組むことができるよう支援を行う。

1 事業の実施状況 及び 自己評価

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	①実施対象者・対象人数(延べ人数) 区内在住の中高生 432名(参加生徒数12名×36回/年)	区内在住中高生約600名
	②実施内容 中高生対象に無料の学習支援を行う。・学校の補習授業・定期テスト対策・提出課題の支援・受験支援等	【教室】中学生のほぼ全員が少なくとも1教科の成績があがり、11月からの出席率が高くなった。特に英語は単語テスト・ESAT-Jのスピーキング練習を行うことによって、進んで学習する生徒が増えた。受験は大学に1名合格、都立高校3名、私立高校1名合格(いずれも第一志望、併願なし)。オンライン事業では引きこもりの生徒が英検受験を果たし、次年度も引き続き東京学芸大学こどもの学び困難支援センターと協働して支援を継続することとなった。
	③実施回数・スケジュール・実施場所 【高円寺教室】毎週木曜日:19時~20時30分、高円寺北区民集会所で無料の学習支援教室を開催。 【オンライン授業】毎週水曜日:11時45分~12時45分 ZOOM授業(東京学芸大学こどもの学び困難支援センターとの協働)	【教室実施回数】30回 【教室スケジュール】18:15~20:30 【教室実施場所】高円寺北区民集会所 【オンライン授業】毎週水曜日:11時45分~12時45分 ZOOM授業(東京学芸大学こどもの学び困難支援センターとの協働)
	④実施体制(実施方法や設備、従事者等の確保状況) 登録講師15名	地域の子ども食堂2団体との協働を目指して、子ども食堂の曜日に合わせて、教室開催日を木曜日から金曜日に変更した。西荻窪の子ども食堂と協働して新しく教室を開催している。登録講師が4名増え(全員HPからの応募)19名、内11名活動中。
	⑤広報活動(活動や事業の周知・PRの状況) チラシ配布・団体WEBサイト・補習授業を行っている都立世田谷高校・杉並区立高円寺学園・連携先の荻窪・高円寺福祉事務所・子ども家庭支援センター等への事業説明。	補習授業を行っている都立世田谷高校・杉並区立高円寺学園・連携先の荻窪・高円寺福祉事務所・子ども家庭支援センター等への事業説明に加えて、子ども食堂3団体との協働によって子ども食堂のSNSを利用して多くの周知が可能となった。

2 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

	事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	当初予定したニーズがありましたか。新たな問題提起ができましたか。	
	<p>現在当団体に連携している生徒の中で母子世帯・生活保護世帯においては、必要教科の一部のみ、中3の一年間のみ、兄弟姉妹の中で1名のみが通塾等、家計の負担と折り合いをつけながら学校外での学習機会を得ている現状がある。また、文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」によれば、経済的理由による高等学校の中途退学者が私立学校・定時制において多く、さらに、その世帯類型については、母子世帯の子供が21.1%であり、国勢調査に基づく15歳以上20歳未満の子供がいる親族世帯に占める母子世帯の割合5.8%と比べると顕著に高い。また文部科学省の調査によれば、ここ数年、通信制高校の生徒数は2020年には20万人を突破し、およそ20人に1人が通信高校に入学している。杉並区内における高校生の現状も同様であるが、義務教育の基礎的な学力なしで高校科目を自力で理解することは難しいため日常的に学習支援者を得て確実に進級・卒業することが重要と考える。</p>	<p>子どもたちから実施日を増やして欲しいという声が上がっているが、財政的に難しい。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p>	
	<p><input checked="" type="checkbox"/>①あった <input type="checkbox"/>②概ねあった <input type="checkbox"/>③あまりなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどなかった</p>	
	団体や地域特性をどのように生かした活動になりましたか。	
	<p>区内での10年間の活動を経て、経済的に恵まれ幼児期から学校外での様々な学びの機会に恵まれる中高生が多い一方で、学校の授業についていけなくても経済的理由から有料の塾に通塾できない、友人関係や学業の悩み等から不登校になる中高生たちの存在も認識し無料の学習の場を提供している。区内中学校において概ね毎月2回数学・英語の補習授業を開催しているため、学校での学習の状況を考慮しながら無料塾での指導を行うことができる。また、杉並区及び近隣地域には高学歴のシニア総(登録者15名)が多く在住しており、参加者はボランティア講師としての意欲が高く、また日中不登校の生徒へのオンライン授業の対応も可能。子どもたちの心に寄り添い、地域で長く伴走型の支援を実現している。</p>	<p>子ども食堂とのつながりによって協働の場が広がり、西荻窪には新しく教室を開くことができた。杉並区在住の講師の参加者が増えた。</p>
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p>		
<p><input checked="" type="checkbox"/>①できた <input type="checkbox"/>②概ねできた <input type="checkbox"/>③あまりできなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどできなかった</p>		
当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。		
<p>地域の方々が地域の子どもの学習支援活動に参加することで社会貢献ができる。子どもたちにとっては一時的な支援ではなく地域で長くつながりを持つことにより、ライフステージの各段階において相談する相手を得ることができる。会議室の使用料や教材費等活動の基本的な経費を得られることにより、支援活動を安定し円滑に進めることができる。運営費の獲得にかかる時間を、講師の研修や学習プログラムの充実、近隣の学校との連携に充当することができる。地域の学校や福祉事務所・子ども家庭支援センター・児童相談所との連携が深まり、課題のある子どもたちへの学習支援を早期に行うことができるようになった。またコロナ禍でZOOM授業を開始し区内の不登校・引きこもりの生徒にたいしてオンライン指導ができる体制を整えている。</p>	<p>区内在住の社会人講師の参加者が4名増えた。杉並区立高円寺学園の補習授業を受けている生徒たちが教室にも参加し始め、ほぼ全員が継続して通っている。成績が伸びて自信をつけた生徒たちも多々見受けられる。大学合格者1名と高校合格者4名に関しては、入会時点では想定外の結果で、本人たちの意欲が大きく育ったことを実感している。オンライン授業に参加している生徒が、会場での英検受験を試み合格した。</p>	
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p>		
<p><input checked="" type="checkbox"/>①できた <input type="checkbox"/>②概ねできた <input type="checkbox"/>③あまりできなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどできなかった</p>		
今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。		
<p>事業を理解し支援活動に加わる社会人講師が増えたことは、賛同者の増加と捉えている。寄付金がわずかながら増加し、HPへのアクセスも増えた。子ども食堂との連携が深まり、西荻窪に教室を開き、高円寺教室は子ども食堂との協働開催が決まり準備中。この事業の効果として、多くの子ども支援団体に当団体の活動内容が周知され、教室に参加する子どもの数が増えた。</p>		
<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p>		
<p><input checked="" type="checkbox"/>①広がった <input type="checkbox"/>②多少広がった <input type="checkbox"/>③広がらなかった</p>		

3 事業は当初の予定どおり実施できましたか。

自己評価	<p>意欲的に参加する社会人講師が増えて、ミーティングや研修に活気が戻ったと感じている。地域の商店の方々からのお菓子や文具の寄付もあり、子どもたちにとって大きな支援となっている。学習面では、学習内容の理解が進み自主的に学習に取り組む生徒が増えた。予定を超えて十分に満足できる事業となった。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/>①できた <input type="checkbox"/>②概ねできた <input type="checkbox"/>③あまりできなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどできなかった </p>

4 「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>様々な場所で話をしたという点では活動したと言えるが、結果的には賛同を得られなかったのが残念な結果だったと思う。ただし、当団体への理解にはつながり、直接の寄付を申し出て頂く場面もあったので、話をする価値はあると感じている。</p>
	<p>【自己評価】 いずれかにチェック(「レ」)を入れてください</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/>①できた <input type="checkbox"/>②概ねできた <input type="checkbox"/>③あまりできなかった <input type="checkbox"/>④ほとんどできなかった </p>

5 事業に関する意見収集の成果について

意見収集の方法・成果	<p>事業実施の際、参加者から感想や意見を集めるため、どのような取組を行いましたか。</p> <p>生徒から直接聞き取り。保護者との面談。講師ミーティングの開催により、参加ボランティアの意見を聞く。</p>
	<p>参加者のうち、どのくらいの人数から感想や意見を集めることができましたか。</p> <p>ほぼ全員。</p>
	<p>貴団体の実施した事業について、どのような感想又は意見がありましたか。</p> <p> 【生徒・保護者から】・実施回数が足りない。・他の場所でもやってほしい。・他の学校でも補習授業を行ってほしい。先生が増えたので自分に合う先生と勉強しやすくなった。 【講師から】・寄付をもっと集めるべき。・勉強が遅れている生徒は週に1回では足りない。 </p>
意見の活用	<p>収集した意見をどのように活動に生かしましたか。又は生かす予定ですか。</p> <p>資金面の問題が大きく1団体では実施不可能なので、他の団体との連携・協働を広げることを考慮したい。</p>

6 課題と今後の活動について

今後の課題と活動	<p>4月からのイマジナスへの移転に伴って、会議室使用料が高額になるので資金調達が課題。</p>
----------	--

★具体的な活動風景の写真などを貼付



8 収支決算

事業費	[D]	105,618	助成金	[E]	79,864
-----	-----	---------	-----	-----	--------

	予算額		決算額		決算額内訳
収入	団体負担金	33,600	25,754		団体負担金(理事会費より)
	参加費・資料代等				
	その他の収入				
	計	[C] 33,600	[F] 25,754		自己資金等
	助成金	[B] 106,000	[E] 79,864		NPO活動資金助成金
合計	[A] 139,600	[D] 105,618			

費目	予算額		決算額		決算額内訳
	助成金対象経費	自己資金等対象経費	助成金対象経費	自己資金等対象経費	
①謝礼金等 (講師が団体内部の場合は対象外)					
小計			0	0	
②旅費・交通費					
小計			0	0	
③備品費・消耗品費			10,000	22,693	問題集
			10,634	11	生徒用お菓子購入費
小計	24,000	17,600	20,634	22,704	
④通信運搬費					
小計			0	0	
⑤印刷製本費 (デザイン・原稿作成含む)				3,050	チラシ印刷代
小計		10,000	0	3,050	
⑥使用料・賃借料			52,200		会議室使用料(30回分)
小計	72,000		52,200	0	
⑦その他の経費			7,030		塾保険代
小計	10,000	6,000	7,030	0	
合計			79,864	25,754	26,136 戻入額[B]-[E]
	[B] 106,000	[C] 33,600	[E] 79,864	[F] 25,754	
	[A] 139,600		[D] 105,618		

☆ 注意事項【1】単価が10万円を超える物品は、見積書等を添付してください。【2】団体運営のための継続的な経費は助成対象外とします。